

LNG の輸出拡大と共に海外関係の強化に努めるカタール



(株)インスペックス 特別顧問 畑中 美樹

液化天然ガス（LNG）の供給力拡大の必要性を顧客に打診するカタール

欧州諸国がロシアのウクライナ侵攻を受けて代替ガスの供給先探しを始めたことから、カタールが液化天然ガス（LNG）の供給力拡大の必要性を顧客たちに打診していることが、本年4月下旬明らかとなった。具体的には、カタール・エナジーは、ガス購入者たちと2021年に始まった総額300億ドルのLNGプラント6基について拡大の必要性の有無を協議したとのことである。

カタール・エナジーは、少なくとも1基拡大した場合の費用、そして追加的なガスの供給に対して中国を含む顧客たちからの関心度合いを評価しているという。但し、こうした話し合いはまだ初期段階にあり、カタール・エナジーが2027年までに最大産出量を60%拡大し、約1億3,000万トンとするとの既存の計画に固執する可能性も残されているとも見られている。

話は大きく変わるが、インド政府が国際航空便の停止を解除したことを受けて、カタール航空とインドの航空会社インディゴ（IndiGo）が戦略的協力関係を再び活性化しようとしている。

カタール航空がインディゴとの新たな契約により、1週間に190便をインドの12都市に新たに飛ばすこととなった一方、インディゴは同じ契約により、1週間に154便をインドの8都市からカタールの首都ドーハに飛ばすこととなった。

この新契約について、カタール航空のアクバル・アル・バケル最高経営責任者は、「我が社のインディゴとの戦略的提携関係の再開はカタールとインドとの航空関係の発展の新たな里程標である」と述べ歓迎している。他方、インディゴのロノジョイ・ドゥッタ CEOも、「今般の航空制限の緩和によって、我が社の途切れのない全国規模での航空便の接続が経済成長を生み出すであろう」と期待を胸に述べていた。

カタールの出稼ぎ労働者を称賛した国際サッカー連盟（FIFA）会長

国際サッカー連盟（FIFA）のジャンニ・インファンティーノ会長が2022年5月2日、概要次のように述べ、カタールで今秋のワールドカップ・サッカー大会の競技場の建設に

従事している労働者たちを称賛した。以下では、その中から重要と思われる部分について紹介することとしたい。

- ① (サッカー大会の余剰金は作業中に亡くなった労働者の家族のために使用されることになるのかと問われて、直接には答えず) (我々は) 最低賃金を導入すると共に、労働者の権利を高めた。
- ② このトピックについて触れる時、一つのことを忘れてはならない。それは労働、過酷な労働についてである。
- ③ 誰かに業務を与える時、その人に尊厳とプライドを与えている。
- ④ それは慈善活動ではないし、施しを行わない。
- ⑤ (競技場の建設は) プライドの問題でもあるし、(働く) 150万の人達のために、条件を変えることもできた。
- ⑥ カタールの巨額の石油・ガスの富で資金手当てされた競技場の建設での死者は、僅か3人である。
- ⑦ (巷間言われている) 6,000人の死者は、その他の現場においてのことである。
- ⑧ FIFAのお陰で、サッカーのお陰で、カタールで勤務する150万人の全ての労働者の状況に対処することが出来た。
- ⑨ カタールには、長く批判されてきた「カファラ¹」雇用制度を2018年に解体するまで、「現代奴隷制度」が存在していた。
- ⑩ 今や出稼ぎ労働者は、雇用者の了承を得ずに、契約終了前に職を変えることもできる。
- ⑪ ワールドカップは、前向きな社会変革に貢献したのである。

サッカーW杯後の失速懸念のなか LNG 貿易の拡大に期待するカタール

カタールの首都ドーハでは今秋サッカーの2022年ワールドカップ (W杯) が開催され

筆者紹介

慶應義塾大学経済学部卒業 (1974年3月), 1974~1980年富士銀行勤務後, 1980~1983年(財)中東経済研究所出向。1983年富士銀行復職後 (1月), 同行を退職 (10月)。

(財)中東経済研究所・カイロ事務所長を経て, 1990年同研究所退職。1990年12月~2000年9月(株)国際経済研究所勤務 (主席研究員), 2000年10月~2005年3月(財)国際開発センター エネルギー・環境室長, 2005年4月エネルギー・環境室研究顧問。2022年4月1日より (一財) 国際開発センター研究顧問。

中東や北アフリカ諸国の王族, 政治家, 政府関係者, ビジネスマンに知己が多く, 中東全域に豊富な人的ネットワークを有する。専門領域は中東経済論。

※著書『「イスラムマネー」がわかると経済の動きが読めてくる!』(すばる舎, 2010年)『中東のクール・ジャパニーズ』(同友館, 2009年)『中東湾岸ビジネス最新事情』(同友館, 2009年)『南地中海の新星リビア』(同友館, 2009年)『今こそチャンスの中東湾岸ビジネス』(同友館, 2009年), 『オイルマネー』(講談社現代新書, 2008年), 『石油地政学』(中公新書ラクレ, 2003年)

1 「カファラ制度」は、カタールをはじめ中東諸国特有の労働契約制度のことで、雇用者が保証人となって外国人労働者に職を提供し、ビザを発給するという内容のものである。尚、同制度の下で、強制労働、契約の書き換え、高額な就職斡旋料、雇用主によるパスポートの没収が行われたため問題化し、発生国が2022年ワールドカップの開催国カタールであったこともあって、ITUC (国際労働組合総連合), BWI (国際建設林業労働組合連盟), ITF (国際運輸労連) などが、同制度の廃止キャンペーンを大々的に行ったことで知られる。

るが、海辺の計画都市ルサイルでは、砂漠をパリのシャンゼリゼ通りのような大通りに変貌させる3億ドル規模の建設事業が進んでいる。

天然ガス資源の豊富なカタールはW杯の誘致が決まってからの11年間で、インフラ整備に少なくとも2,290億ドルを投じたほか、エネルギー依存から脱却するため経済多角化を進めている。

既に海辺の都市ルサイルでは、本年4月に600店舗を擁するショッピングモール「プラス・バンドーム」がオープンしている。この一帯はパリをイメージして設計されており、買い物客は水路からボートで到着し、音楽に合わせて吹き上がる噴水を眺めながら屋外で食事ができる。しかも、近くでは「クリスチャン・ディオール」や「ルイ・ヴィトン」といった高級ブランドの巨大店舗も営業している。

こうした華やかさの一方、カタール国内では、W杯後に建築物の大半で閑古鳥が鳴くのではとの懸念も高まっている。そのため、例えば、アラブ湾岸諸国研究所（在ワシントン）のロバート・モギエルニック上級研究員は、多くのインフラをW杯後に別の目的に転用する必要性を早くも指摘している。

因みに、国際通貨基金（IMF）はカタールの経済成長率について、本年はW杯効果で3.4%になるものの、2年後の2024年には1.7%に減速すると予想している。但し、やや楽観的かもしれないが、IMFはカタールの経済成長率が新たなLNG生産施設が稼働する2027年には3.8%に回復すると予想している。

フェリペ6世・スペイン国王とサルスエラ宮殿で会談したタミーム首長

カタールのシェイク・タミーム・ビン・ハマド・アル・サーニ首長が5月17日、スペインを訪問しフェリペ6世国王と首都マドリッドのサルスエラ宮殿で会談し、二国間の友好協力関係や両国が関心を持つ問題について意見を交換した。

スペインのフェリペ6世国王は同会談で、来訪を歓迎すると共に、全ての分野において二国関係がさらに発展することを希望すると述べていた。他方、タミーム・カタール首長は、親切的な歓待への謝意を表すと共に、両国友好協力関係の強化に期待すると述べていた。

ところで、スペイン政府筋が同日（＝5月17日）に明らかにしたところでは、3,000億ドルを保有するカタールのソブリン・ウェルス・ファンドは、欧州連合（EU）のCOVID回復ファンドが資金を拠出しているスペインのプロジェクトへの投資を検討しているという。

このほか、スペインはガス供給の安定性を確保するため、今回のタミーム首長の来訪を好機と捉え、カタールからの液化天然ガス（LNG）の輸入を増やしたいと考えているようだ。周知のように、スペインは余剰のLNGターミナル能力及び欧州における大半のLNG再ガス化プラントを持っていることから、ロシアのガス依存を引き下げたい欧州諸国にと

ってのガス供給のハブ国となることを目指しているという。

因みに、スペインの主要なガス企業「ナチュルギイ (Naturgy)」は、現在、カタールガスとそれぞれ年間75万トンのガス供給の契約を2本結んでいる。尚、これら2本の契約のうち、1本目は2024年まで、2本目は2025年までとなっている。

ガス大国のカタールは、現時点で既に年間7,700万トンものLNGを輸出しているが、歳入増による自国経済の多角化などをさらに推進するべく、LNG輸出量を2027年までに1億2,600万トンに増やすことを計画している。

ロシア依存の脱却へ LNG 輸入強化でカタールと合意したドイツ政府

ドイツ政府は5月20日、世界有数の液化天然ガス (LNG) の輸出国であるカタールのタミーム首長のドイツ来訪に合わせ、LNGの輸入を含めたエネルギー関係の協力を強化する文書を取り交わしたことを発表した。欧州最大の経済大国であるドイツは、輸入する天然ガスの55%がロシア産となっているが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻を受けて調達先の切り替えが喫緊の課題となっている。

ドイツとカタールが交わした文書には、LNGの受け入れがいつ開始されるかなど詳細な内容は盛り込まれていない。但し、カタールのムハンマド外相は、ドイツのメディアとのインタビューで、2023年には輸出が開始される見通しであると答えている。

他方、ドイツのシュルツ外相は、カタールとのこの合意について記者会見で次のように説明し、ガスの確保が進むことに期待を示していた。

- ① 十分な数量の LNG を確保することになる。
- ② これは大きな前進である。
- ③ カタールはドイツの戦略の柱を担う。

ドイツはカタールとの合意により、ロシア産に代わるガスの確保に一定のめどをつけたことになるが、国内に海外からの LNG を受け入れる基地がないことから、今後、施設の工事を開始するなどの対応が急がれることになる。

こうした中、ロシア最大の石油会社である「ロスネフチ」の会長職を5年前から務めていたシュレーダー・元ドイツ首相が5月20日、退任する意向を表明した。同元首相を巡っては、ロシアのウクライナへの軍事侵攻後も、ロスネフチなどロシアのエネルギー関係企業の要職に留まっていたこともあって、ドイツ国内では批判が高まっていた。

因みに、ドイツ連邦議会の委員会は5月19日、こうした批判の高まりを受けて、シュレーダー元首相に対し議会内の事務所を使用する権利を停止するとの異例の動議を賛成多数で可決している。また、シュルツ首相も元首相に対し、ロシアとの関係を断つよう繰り返し

返し求めている。

ウクライナ紛争の平和解決に貢献の用意があると発言したタミーム首長

カタールのタミーム首長は、5月23日、世界各国から有力者や著名人が集まることで知られる、スイスのダボスで開催の世界経済フォーラムで講演し、概要次のように述べ、国際的役割を果たしていく考えを明らかにしていた。

- ① 侵略行為に関連した、紛争解決の機会が増えている。
- ② 我々は、ウクライナ危機に関して、様々な関係者と連絡を取り合っている。
- ③ 我々は、当事者を一つにすることを、決して諦めてはならない。
- ④ 努力によって一人でも多くの命を救えると信じる限り、我々の仲介の試みには価値がある。
- ⑤ 人種や宗教を問わず、紛争のために故郷を追われた、何百万人もの人々に対する支援を表明する。
- ⑥ 我々は、欧州の人々の一人一人の命の価値を、中東地域の人々と同様に尊いと考えている。
- ⑦ 我々は、欧州で起きている戦争の犠牲者である何百万人もの罪のない難民、そして今起こっている他の全ての戦争の犠牲者、つまり、あらゆる人種、国籍、宗教の犠牲者と共に連帯して行く。
- ⑧ 我々は、彼ら全員を助けたいと願っている。
- ⑨ パレスチナの人々は、何十年も占領され、救済の目途が立っていない。
- ⑩ ウクライナ危機の外交的解決に向けて注力するのと同様に、忘れられた、或いは、無視されている他の紛争の解決にも、関心と労力を注いで欲しい。
- ⑪ その最も分かりやすい例は、国連設立以来、その傷口が広がり続けているパレスチナ問題である。
- ⑫ 違法な入植による侵略行為は絶えることなく拡大し、パレスチナ人に対する攻撃も同様に容赦ない。
- ⑬ 西岸ジェニンの難民キャンプでイスラエルの襲撃を取材中、5月11日に死亡した、パレスチナ系米国人のベテラン記者であるシリーン・アブアクラ女史は、何十年にもわたりパレスチナの人々が受けている苦難を取材してきた。
- ⑭ 我々は、心を痛めている。
- ⑮ 彼女の死は、2022年3月以降ウクライナで殺された7名のジャーナリスト、2000年以降パレスチナで殺された18名のジャーナリスト、そしてイラク、シリア、イエメンで命を失った多くのジャーナリストの事件と同様に恐ろしいことである。

- ⑯ 各国政府が、宗教、地域、人種に基づく人間の価値について、二重基準を示している。
- ⑰ 21世紀において、我々はこのような侵略を容認してはならない。
- ⑱ 政府が宗教や地域、人種に基づく人間の価値について二重基準を示すような世界を受け入れてはならない。
- ⑲ カタールは、アラブ諸国として初めてFIFAワールドカップを開催するが、前例のない非難を受けている。
- ⑳ この数十年、中東地域は差別に苦しんできた。
- ㉑ そして、そのような差別は、我々について知らない、場合によっては知ろうとしないことが、大きな原因であることに気が付いた。
- ㉒ 今でも、アラブ・イスラム諸国が、ワールドカップのような大会を開催することを、受け入れられないという人々がいる。
- ㉓ 差別を行う人達の中には、影響力のある地位に就いている人物も数多く含まれる。
- ㉔ 彼らは、これまでにないペースで非難を開始した。

エリザベス英女王、チャールズ英皇太子を表敬訪問したタミーム首長

カタールのタミーム首長は翌5月24日には英国を訪問している。まず、タミーム首相は同日の朝、ロンドンのクレアレンス・ハウスを訪れ、チャールズ皇太子と会談している。この会談では、両国及び両国国民の友好協力関係とそれらをさらに発展される方法が話し合われたほか、両国にとって関心の高い幾つかの問題について意見が交換された。

尚、チャールズ英皇太子とタミーム首長の会談には、英国側からは多くの高官が同席し、カタール側からはタミーム首長の外遊に同行している公式代表団の中の高位のメンバーが同席していた。

その後、タミーム首長は同じロンドンにあるウィンザー城を訪れ、エリザベス女王に表敬訪問を行った。タミーム首長はエリザベス英女王との会談では、両国及び両国国民の歴史的な友好関係とそれらを一層深化させる方法が話し合われたほか、両国関係を益々強化させる見通しについて意見が交換された。さらに、エリザベス女王とタミーム首長は、相互に関心のある問題について意見を交換していた。

さらに、タミーム首長はダウニング街10番地の首相官邸に行き、ジョンソン英首相と会談している。タミーム首長は首相官邸訪問時にジョンソン英首相に対して、次のように述べていた。即ち、「私の英国訪問は、両国関係が、有望分野における機会の増加を目にしつつある時に実現した。それは、両国国民の利益の観点からすれば戦略的な関係の強化に貢献することになる」と。

尚、タミーム首長はジョンソン英首相との会談に関して、自身のツイッター上の公式アカウントでは次のように記述していた。「私は本日、友好国である英国訪問を締めくくりま

した。滞在中、エリザベス女王陛下、チャールズ皇太子、ジョンソン首相、そして多くの英国当局者とお会いできて嬉しく思いました。両国関係は有望な分野での機会の増加を目のあたりにしています。それは、両国国民にとって利益となり戦略的な関係の確立に貢献することになるでしょう」と。

尚、5月24日には、カタール・英国共同コミュニケ（声明）が発表されている。同コミュニケ（声明）は、幾つかの個別の国際問題にも触れているので、以下では中東情勢に関わるイラン及び中東和平についての記述を紹介することとしたい。

① イラン

両国首脳は、中東の安定、安保、繁栄の達成には一層の国際調整が必要なことを強調した。両国首脳は、こうした努力におけるカタール外交の役割を認識し、イランを含めた地域対話イニシアチブを支援する旨、表明した。

両国首脳は、地域の安定を支援する上での、復活したイランの核問題に関する包括的共同作業計画（JCPOA：Joint Comprehensive Plan of Action）の完全履行の持つ潜在的役割を認識した。

両国は、イランの核計画が平和目的のためにだけ使われていることを確実にするには、外交解決が最善の方法であることを確認した。

両国は、全ての当事者に対して、この機会を捉えて交渉が成功という結論をもたらすよう促した。

② 中東和平

両国首脳は、パレスチナとイスラエルの直接対話への支持を概説し、公正で永続的な平和の唯一の方法は平和的な二国家解決方式のコミットメントであると理解した。

両国首脳は、紛争の根本原因の表明の必要性を強調した。

また、2人の指導者は、国連安保理諸決議及び国際条約を尊重しつつ、確立された国際法を忠実に順守する必要性を強調した。

2人の指導者は、エルサレムの聖なる場所の歴史的な現状の維持を尊重する必要性を強調し、全ての当事者に対して如何なる挑発も行わないよう促した。

2人の指導者は、パレスチナ系米国人ジャーナリストのシリーン・アブアクラ女史のジェニンでの5月11日の殺害を非難し、5月13日付けの国連安保理による、即時の完全で透明で公正かつ公平な調査の呼びかけを繰り返した。

両指導者は、メディアの自由の促進・保護の重要性とその価値に同意し、世界中のジャーナリストたちが自らの職務を安全かつ開放的に実施できるようにするとの確約を強調した。

指導者たちは、世界のその他諸国や国際的組織と共に、偽情報と戦うために協力することに合意した。

ダイナミックな提携の構築に際して、カタールと英国は、深遠な対話と長期協力に専念し続けた。

タミーム首長は、女王陛下の即位70周年記念式典を祝して、首相、英国民、英連邦諸国に祝辞を述べた。

ところで、ロイター通信によれば、新型コロナウイルスについては世界的大流行以降、5月26日時点でのカタールの感染者は36万7,807人で、死者数は677人となっている。

*本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。